

令和5年度 第1回佐久市地域包括支援センター運営協議会
資料

佐久市 高齢者福祉課

令和5年度 第1回 佐久市地域包括支援センター運営協議会 次第

日時：令和5年5月31日（水）

午後1時00分～

場所：佐久消防署3階 講堂

1 開会

2 福祉部長あいさつ

3 協議事項

(1) 地域包括支援センター運営関係

ア 令和4年度地域包括支援センター収支決算及び事業報告

資料No. 1-1 ～ 1-5

イ 令和5年度地域包括支援センター収支予算及び事業計画

資料No. 2-1 ～ 2-2

(2) 地域包括ケア関係

資料No. 3-1 ～ 3-2

(3) その他

4 事務連絡

5 閉会

佐久市地域包括支援センター運営協議会 委員名簿

任期:令和4年4月1日～令和6年3月31日 (敬称略)

選出組織等	氏 名	備 考
識見者	和 田 裕 一	社会福祉法人佐久福寿園理事長
識見者	菊 池 小 百 合	佐久大学信州短期大学部教授
医師会	岡 田 稔	佐久医師会監事
歯科医師会	野 村 裕 行	佐久歯科医師会副会長
薬剤師会	今 牧 健 之	佐久薬剤師会会長
区長会	磯 貝 源 夫	佐久市区長会理事 (高瀬地区会長)
社会福祉協議会	小 林 光 男	佐久市社会福祉協議会会長
民生児童委員協議会	池 田 鐘 三	佐久市民生児童委員協議会 副会長(浅間地区会長)
民生児童委員協議会	青 木 美 佐 子	佐久市民生児童委員協議会 副会長(臼田地区会長)
保健補導員会	鷹 野 香	佐久市保健補導員会理事
栄養士会	柳 沢 喜 美 子	長野県栄養士会佐久支部支部長
シニアクラブ連合会	井 出 進	佐久市シニアクラブ連合会会長
介護職域代表	関 澤 加 代	居宅介護支援事業者連絡協議会会長
弁護士会	森 泉 邦 夫	長野県弁護士会佐久在住会

令和5年度 第1回佐久市地域包括支援センター運営協議会 席次表

佐久消防署3階 講堂

岡田稔 会長

佐久医師会監事

池田 鐘三 委員
佐久市民生児童委員協議会副会長

青木 美佐子 委員
佐久市民生児童委員協議会副会長

鷹野 香 委員
佐久市保健補導員会理事

柳沢 喜美子 委員
長野県栄養士会佐久支部支部長

井出 進 委員
佐久市シニアクラブ連合会会長

関澤 加代 委員
居宅介護支援事業者連絡協議会会長

森泉 邦夫 委員
長野県弁護士会佐久在住会

和田 裕一 委員
社会福祉法人佐久福寿園理事長

菊池 小百合 委員
佐久大学信州短期大学部教授

野村 裕行 委員
佐久歯科医師会副会長

今牧 健之 委員
佐久薬剤師会会長

磯貝 源夫 委員
佐久市区長会理事

小林 光男 委員
佐久市社会福祉協議会会長

事務局

丸山 望月支所長

大工原 浅科支所企画幹

高橋 白田支所長

遠藤 福祉部長

井出 高齢者福祉課長

吉江 高齢者福祉課課長補佐

小山 高齢者支援係長

佐藤 (千)

佐藤 (加)

浅科・望月包括
白石 管理者

白田包括
由井 管理者

野沢包括
仁科 管理者

中込包括
佐々木 管理者

岩村田・東包括
依田 主任介護支援専門員

岩村田・東包括
神津 管理者

佐久平・浅間包括
坂本 管理者

傍聴席

地区担当保健師

佐久市地域包括支援センター運営協議会設置要綱

平成17年9月28日告示第181号

改正

平成22年3月29日告示第53号

平成28年2月17日告示第9号

(設置)

第1条 本市の地域包括支援センター（以下「センター」という。）の適切な運営、公正及び中立性の確保その他センターの円滑かつ適正な運営を図るとともに、地域包括ケアの推進を図るため、佐久市地域包括支援センター運営協議会（以下「運営協議会」という。）を置く。

(任務)

第2条 運営協議会は、次に掲げる事項について協議する。

- (1) センターの設置等に関する事項の承認に関すること。
- (2) センターの運営に関すること。
- (3) センターの職員の確保に関すること。
- (4) 生活支援等サービスの体制整備に関すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、地域における介護保険以外のサービス等との連携体制の構築、地域包括支援事業を支える地域資源の開発その他地域包括ケアの向上のため必要と認められること。

(承認に係る事項)

第3条 前条第1号に規定する承認に係る事項は、次に掲げるものとする。

- (1) センターの担当する圏域の設定
- (2) センターの設置、変更及び廃止並びにセンターの業務の法人への委託又はセンターの業務を委託された法人の変更
- (3) センターの業務を委託された法人による予防給付に係る事業の実施
- (4) センターの予防給付に係るマネジメント業務の居宅介護支援事業所への委託
- (5) 前各号に掲げるもののほか、センターの公正及び中立性を確保するため必要と認められる事項

(センターからの書類の受領及びセンターの事業の評価)

第4条 運営協議会は、センターの運営に関する協議に資するため、毎年度、センターから次に掲げる書類の提出を受けるものとする。

- (1) 当該年度の事業計画書及び収支予算書
 - (2) 前年度の事業報告書及び収支決算書
 - (3) 前2号に掲げるもののほか、運営協議会が必要と認める書類
- 2 運営協議会は、前項に規定する書類及び次に掲げる事項を勘案して作成する基準に基づき、定期に又は必要な時に、センターの事業の内容を評価するものとする。
- (1) センターが作成するケアプランにおいて、正当な理由なく特定の事業者が提供するサービスに偏りが無いか。
 - (2) センターにおけるケアプランの作成の過程において、特定の事業者が提供するサービスの利用を不当に誘引していないか。
 - (3) センターが作成するケアプランにおいて、提供するサービスが適正であるか。
 - (4) 前3号に掲げるもののほか、地域の実情に応じて必要と認められる事項

(センターの職員の確保)

第5条 運営協議会は、センターの職員を確保するため、必要に応じ、地域の関係団体等との間において調整を行う。

(組織)

第6条 運営協議会は、委員15人以内をもって組織する。

- 2 委員は、市民、識見を有する者、関係団体の代表者等のうちから市長が委嘱する。

(任期)

第7条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第8条 運営協議会に、会長及び副会長1人を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、運営協議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議等)

第9条 運営協議会の会議は、会長が招集し、会長がその議長となる。

2 運営協議会は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。

3 運営協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 会長は、その所掌事務について必要があると認めるときは、委員以外の者の運営協議会への出席を求め、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第10条 運営協議会の庶務は、福祉部において処理する。

(その他)

第11条 この要綱に定めるもののほか、運営協議会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、平成17年10月1日から施行する。

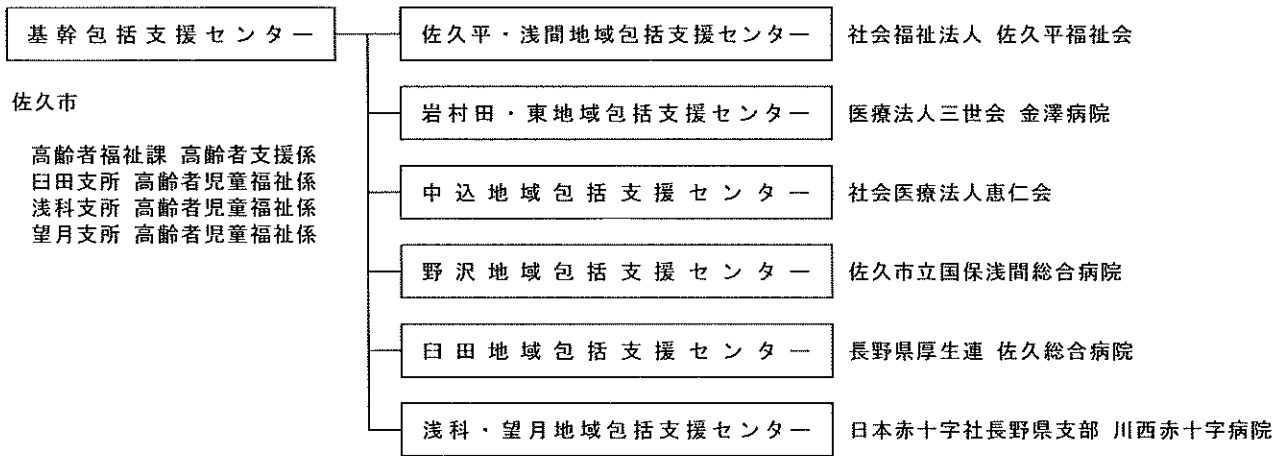
附 則（平成22年3月29日告示第53号）

この要綱は、平成22年4月1日から施行する。

附 則（平成28年2月17日告示第9号）

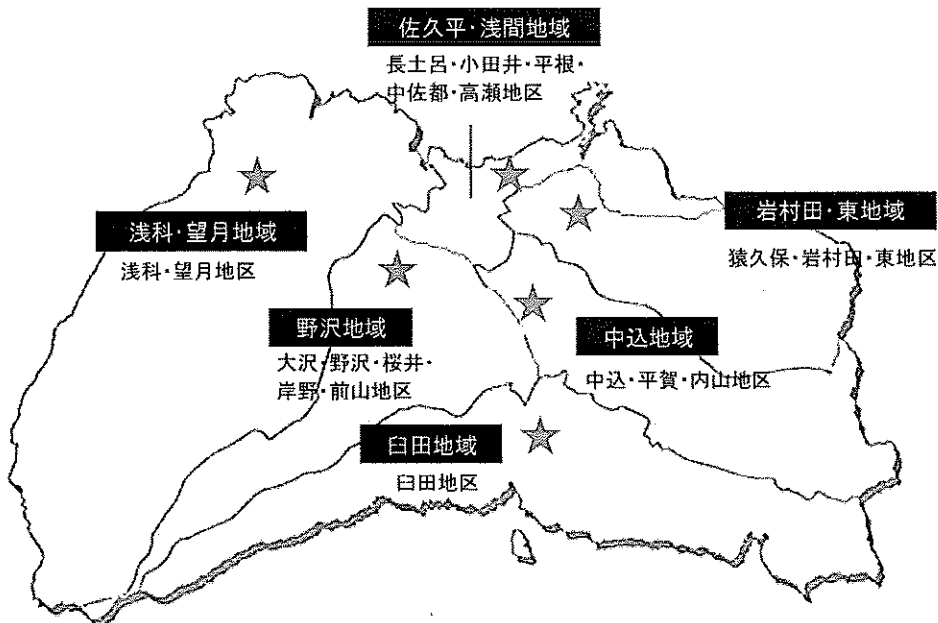
この要綱は、平成28年4月1日から施行する。

令和5年度 佐久市地域包括支援センター 組織体制



担当圏域別 人口統計 (令和5年4月1日現在)

包括	総人口 (人)	男 (人)	女 (人)	65歳以上		要介護 認定者	要支援 認定者	事業 対象者
				(人)	対人口			
佐久平・浅間	19,137	9,406	9,731	4,580	23.9%	528	136	156
岩村田・東	20,016	9,890	10,126	5,303	26.5%	637	121	170
中込	15,130	7,430	7,700	4,806	31.8%	582	150	89
野沢	17,134	8,384	8,750	5,563	32.5%	701	178	156
臼田	12,743	6,236	6,507	4,808	37.7%	674	137	111
浅科・望月	13,789	6,849	6,940	5,472	39.7%	705	162	195
合計	97,949	48,195	49,754	30,532	31.2%	3,827	884	877



地域包括支援センター 職員名簿

(令和5年5月1日現在)

地域包括支援センター	職種等	氏名
佐久平・浅間	保健師	○坂本 夏希
	社会福祉士	加藤 和美
	主任介護支援専門員	片山 恵子
	社会福祉士・生活支援コーディネーター	山崎 茂文
	保健師	井出 士道
	事務員	松濤 玲子
岩村田・東	主任介護支援専門員	○神津 佳子
	主任介護支援専門員	依田 智早
	保健師	近藤 早那子
	社会福祉士	小林 由可子
	社会福祉士・生活支援コーディネーター	小林 由美恵
	社会福祉士・生活支援コーディネーター	大池 恵美子
中込	主任介護支援専門員	○佐々木 公子
	保健師	小池 葉子
	社会福祉士	大井 美希
	社会福祉士	岡田 愛
	社会福祉士・生活支援コーディネーター	小林 友子
	事務員	小林 有希
野沢	主任介護支援専門員	○仁科 隆子
	保健師	曾我 栄子
	看護師	土屋 雅子
	社会福祉士	大工原 光一
	主任介護支援専門員・生活支援コーディネーター	池田 貴哉
	事務員	堀内 美沙
臼田	主任介護支援専門員	○由井 崇之
	保健師	高橋 さいか
	社会福祉士	小林 有菜
	主任介護支援専門員・生活支援コーディネーター	鷹野 洋美
浅科・望月	主任介護支援専門員	○白石 真紀
	看護師	高橋 まり子
	社会福祉士	田中 かおり
	社会福祉士・生活支援コーディネーター	宮原 いづみ
	事務員	岩下 亜沙美

令和4年度 地域包括支援センター相談件数集計

表 1

相談内容	相対件数			佐久平・漆間			岩村田・東			中込			野沢			白田			漆科・望月			全市計					
	来所	訪問	その他	来所	訪問	その他	来所	訪問	その他	来所	訪問	その他	来所	訪問	その他	来所	訪問	その他	来所	訪問	その他	来所	訪問	その他			
相対件数	6	111	14	168	789	38	1706	46	398	2128	79	1558	142	729	2488	57	1441	72	831	2401	23	787	48	159	935		
地域に於ける様々な相談者のネットワークの構築																											
総合相談 支援業務	32	6	144	6	168	1	8	129	2	146	5	6	75	3	89	0	12	98	0	110	4	4	5	164	1	177	
総合相談	122	3516	1416	595	5612	172	2415	893	145	3725	136	1281	1173	403	2893	159	2855	1300	309	4653	214	1975	862	753	3887	1000	
計	180	4133	1574	732	8598	211	4129	1168	465	5993	220	2825	1390	1135	6570	216	4306	1500	1140	7164	241	2500	1139	887	4587	243	
成年後見制度の活用	8	48	8	10	72	0	0	1	0	1	3	29	5	4	41	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0
老人福祉施設等への措置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
虐待への対応	5	89	18	38	160	8	128	27	11	174	5	189	27	67	288	2	1	0	12	15	1	25	3	6	35	4	
困難事例への対応	6	148	8	12	174	0	1	0	0	1	0	0	0	4	4	0	6	2	11	21	4	22	19	3	48	9	31
消費者被害の防止	0	11	5	0	17	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	17	308	40	60	429	8	1300	28	11	177	8	199	32	75	313	2	8	2	23	36	5	48	23	5	85	13	
包括的・継続的なケア体制の構築	10	458	151	51	870	51	902	76	31	1060	71	374	178	74	685	1	85	14	18	118	9	174	88	17	298	24	
介護支援専門員のネットワークの活用	42	890	6	31	789	1	10	1	1	13	39	221	5	11	276	9	528	6	23	586	14	215	73	5	307	43	
介護支援専門員に於ける自然的要因による相談	3	119	1	1	130	1	4	0	0	5	2	10	0	0	12	6	61	5	3	77	7	25	13	4	49	6	34
介護支援専門員に於ける支援体制等への措置・助言	5	43	7	4	59	1	48	6	4	59	0	0	0	1	0	1	0	3	2	22	27	2	16	13	4	35	4
計	86	1310	185	87	1828	54	984	83	36	1137	112	805	182	85	984	16	677	27	66	788	32	430	197	30	689	77	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	2	5	6	0
合計(A)	243	5749	1779	879	8650	273	5223	1279	532	7307	340	3828	1604	1295	236	4894	1525	1229	7988	5354	279	2782	1381	932	333	3067	
相談件数合計	21	233	23	87	6	18	199	9	74	10	17	124	71	91	7	22	171	15	54	8	28	115	20	38	2	29	
新規(再発)																											
地域ケア会議実施回数(再発)																											

表 2

介護予防ケアマネジメント業務	新規		委託(再発)		新規		委託(再発)		新規		委託(再発)		新規		委託(再発)		新規		委託(再発)		新規		委託(再発)		
	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	
介護予防支援 (介護予防給付)	30	1248	14	474	20	915	5	97	36	939	7	379	30	1307	9	287	16	748	4	287	64	1498	38	587	
介護予防ケアマネジメント(総合事業)	58	1233	6	183	38	1068	1	65	46	824	9	124	63	1084	5	121	33	661	3	103	36	1010	2	35	
介護予防ケアマネジメント(高齢者支援)	0	0	0	0	10	10	0	0	2	2	0	0	9	9	0	0	1	1	0	0	3	3	0	0	
計	88	2481	20	657	58	2003	6	182	82	1773	16	603	93	2401	14	492	49	1430	7	390	100	2506	40	823	
介護予防給付																									
介護予防給付																									
実施回数																									
健康介護予防支援布数																									

介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント委託先事業所一覧

令和5年5月1日現在の委託先事業所は以下のとおり。

No	事業所名称	事業所所在地	委託の状況					浅科・望月
			佐久平・浅間	岩村田・東	中込	野沢	白田	
1	浅科薬局	佐久市桑山 1241-1	○					○
2	あんしん居宅介護支援事業所	佐久市野沢 333-1 ウェルガーデン佐久内				○		○
3	いろどり生活応援相談室	佐久市中込 2982-1 上原ビル 2 階 5 号	○		○			
4	エフピー居宅介護支援事業所佐久	佐久市長土呂 908-1 ケアライズ礎	○		○			○
5	エフピー居宅介護支援事業所佐久中央	佐久市中込 3713-11	○	○	○			
6	金澤病院居宅介護支援事業所	佐久市大字岩村田 802-1	○	○	○			○
7	川西赤十字居宅介護支援事業所	佐久市望月 342 番地	○	○	○			
8	居宅介護支援事業所ケアセンターさくら	佐久市下小田切 73	○	○	○			
9	居宅介護支援事業所さくら医研	佐久市下平尾字宮ノ前 303-3	○					
10	居宅介護支援事業所 なごみ	佐久市八幡 222-1 株式会社中澤 1 階	○					○
11	ケアプランセンター ぼんり	佐久市長土呂 793-12 ナチュラルパビリオンゾートぼんり	○					
12	ケアプランセンター星の里	佐久市臼田 785-8	○	○	○			
13	ケイジ地域ケアセンター中込	佐久市中込 3 丁目 2 番地 8	○	○	○			○
14	佐久市立国保医療総合病院 指定居宅介護支援事業所	佐久市岩村田 1862-1	○	○	○			
15	佐久こまば居宅介護支援事業所	佐久市磯久保 232-7	○	○	○			
16	佐久総合病院ケアマネジメントセンター	佐久市伴野 1489 番地	○					
17	佐久だいら居宅介護支援事業所	佐久市常田 77-1	○					
18	さくたいら敬老園居宅介護支援事業所	佐久市佐久平野北 17-4 パストラルさくたいら	○					○
19	佐久福寿園	佐久市岩村田 4213 番地	○	○	○			
20	長野県厚生農業協同組合連合会佐久総合病院	佐久市臼田 197 番地	○	○	○			
21	ニチイケアセンターなかごみ	佐久市中込中原 3639-35	○					
22	ほのか介護居宅支援事業所	佐久市臼田 89-1	○					○
23	望月慈玄福会居宅介護支援事業所	佐久市望月 285 番地 2	○					○
24	望月慈玄福会指定居宅介護支援事業所	佐久市望月 326-4	○					○
25	らいおんハート佐久ケアプランセンター	佐久市前山 321-3	○					○
26	ケアプランセンターあさま	小諸市耳取 948 番地 1	○					○
27	シルバークアのぞみ	小諸市和田 841-7	○					○
28	社会福祉法人 東御市社会福祉協議会	東御市鞍掛 197 番地	○					○
29	社会福祉法人 御代田町社会福祉協議会ハートピアみよた	北佐久郡御代田町大字御代田 1772-1 御代田町地域福祉センター	○					○
30	ローマウンエだ福祉相談センターひだまり	上田市殿城 250-1	○					○
31	さわやかホーム	群馬県甘楽郡南牧村大字大日向 926	○					○

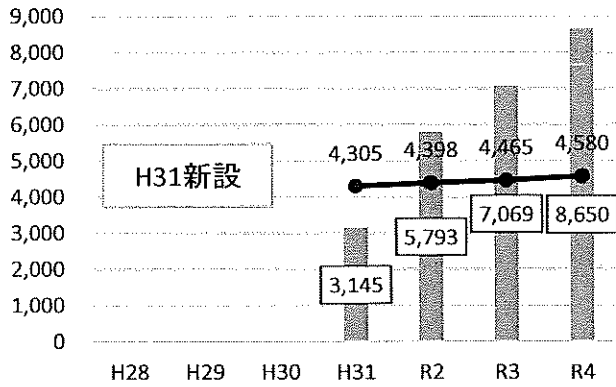
(参考)

介護予防支援及び介護予防ケアマネジメントは、地域包括支援センターから居宅介護支援事業所へ委託することが可能となっている(介護保険法第115条の23第3項、第115条の47第5項)。出典:厚生労働省資料を一部改変

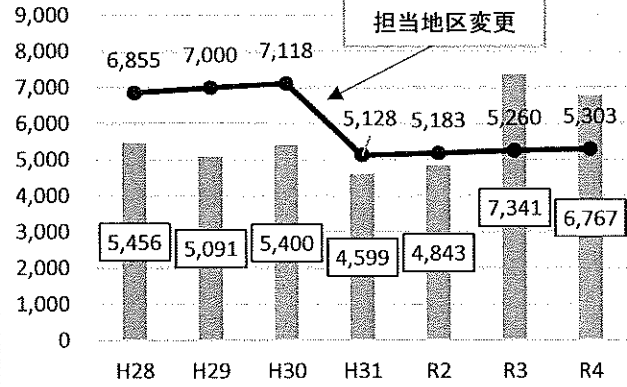
対象者	総合事業対象者	要支援者(要支援1~2)	要介護者(要介護1~5)
ケアマネジメントの実施主体	地域包括支援センター	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所
ケアマネジメントの類型	介護予防ケアマネジメント	介護予防支援	居宅介護支援
居宅介護支援事業所への委託	可能	可能	

地域包括支援センター相談件数の推移

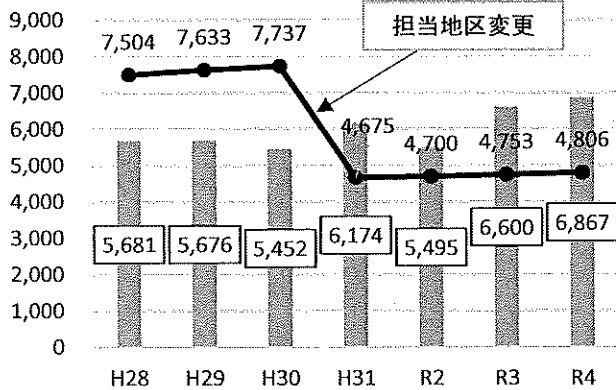
佐久平・浅間



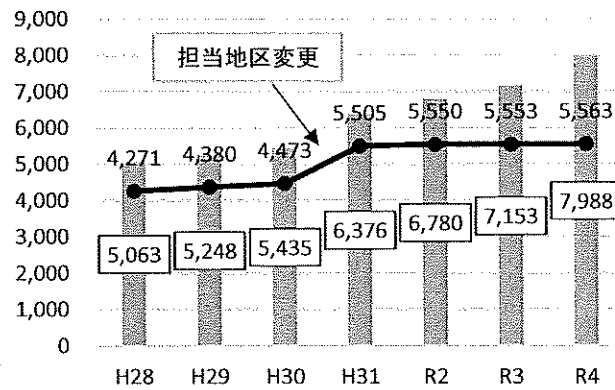
岩村田・東



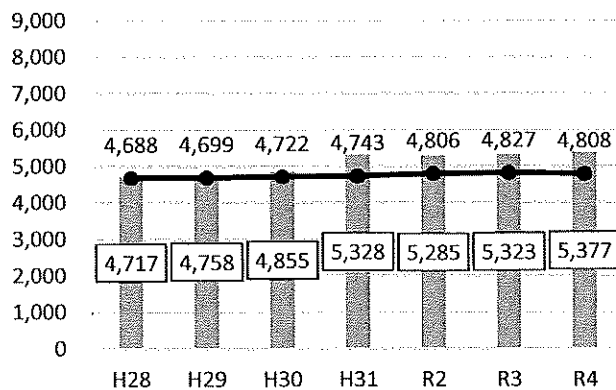
中込



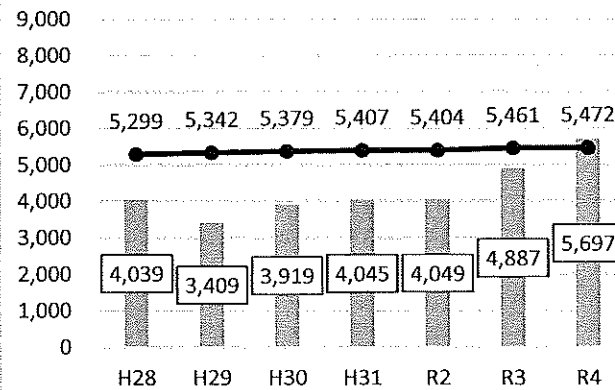
野沢



白田



浅科・望月



■ 相談件数 ● 圏域高齢者人口

令和4年度 包括的支援事業 収支決算書

収入の部

単位:円

区分	地域包括支援センター					
	佐久平・浅間	岩村田・東	中込	野沢	臼田	浅科・望月
受託収入	20,240,000	20,330,000	20,340,000	19,500,000	19,260,000	19,630,000
法人負担金	23,008	103,408	1,168,698	11,607,172	327,597	0
事業収入	10,608,700	6,973,860	7,178,166	9,668,140	7,512,360	10,377,120
その他収入	5,323	0	1,246,500	23,800	21,200	75,000
収入合計	30,877,031	27,407,268	29,933,364	40,799,112	27,121,157	30,082,120

支出の部

単位:円

区分	地域包括支援センター					
	佐久平・浅間	岩村田・東	中込	野沢	臼田	浅科・望月
人件費						
職員俸給	15,166,014	15,251,083	19,480,717	19,246,530	18,543,125	17,411,445
職員手当等	5,079,977	3,174,381	3,327,668	11,397,250	4,179,936	4,044,534
共済費	2,998,541	2,931,512	0	6,071,564	1,677,228	4,329,473
人件費計	23,244,532	21,356,976	22,808,385	36,715,344	24,400,289	25,785,452
管理費						
減価償却費	231,558	1,910,730	1,047,257	445,562	0	101,208
福利厚生費	30,126	80,000	108,900	117,036	28,065	26,880
研究研修費	24,489	13,990	55,953	22,000	10,000	10,830
旅費	132	0	0	0	0	0
報償費	21,847	0	0	0	0	0
需用費						
消耗品費	75,888	620,672	121,024	307,689	61,616	78,491
光熱水費	270,288	847,475	741,971	158,956	0	139,350
印刷製本費	87,777	13,215	124,934	0	0	13,760
車両関係費	674,781	53,180	0	0	501,930	43,000
燃料費	211,883	155,889	104,671	199,087	95,696	138,617
修繕費	1,836	15,400	0	138,380	0	82,412
役務費						
通信費	492,356	547,235	381,584	378,516	261,225	516,138
その他	0	4,002	0	0	0	0
租税公課	0	34,800	179,861	0	10,676	33,600
保険料	71,958	171,550	149,040	0	26,215	159,409
委託料	2,708,428	968,424	3,348,787	2,078,352	1,413,226	2,898,966
備品購入費	0	235,730	81,221	168,190	9,208	26,383
使用料及び賃借料	2,669,839	378,000	679,776	70,000	57,600	27,624
分担金	57,950	0	0	0	242,355	0
会議費	1,363	0	0	0	3,056	0
管理費計	7,632,499	6,050,292	7,124,979	4,083,768	2,720,868	4,296,668
支出合計	30,877,031	27,407,268	29,933,364	40,799,112	27,121,157	30,082,120

令和4年度 生活支援体制整備事業 収支決算書

収入の部

単位:円

区分	地域包括支援センター					
	佐久平・浅間	岩村田・東	中込	野沢	臼田	浅科・望月
受託収入	3,150,000	3,200,000	3,170,000	3,260,000	3,200,000	3,390,000
法人負担金	2,569	219,047	300,423	1,233,890	452,455	0
事業収入	0	0	60,000	20,000	0	0
その他収入	545	0	138,500	0	0	0
収入合計	3,153,114	3,419,047	3,668,923	4,513,890	3,652,455	3,390,000

支出の部

単位:円

区分	地域包括支援センター					
	佐久平・浅間	岩村田・東	中込	野沢	臼田	浅科・望月
人件費						
職員俸給	1,709,414	2,194,600	2,656,461	2,523,990	2,644,527	2,271,300
職員手当等	631,133	559,593	453,773	1,224,199	561,010	542,400
共済費	307,457	389,359	0	747,739	340,990	576,300
人件費計	2,648,004	3,143,552	3,110,234	4,495,928	3,546,527	3,390,000
管理費						
減価償却費	23,742	106,000	116,362	0	0	0
福利厚生費	3,088	20,000	12,100	0	4,952	0
研究研修費	2,511	26,400	6,217	0	0	0
旅費	12	0	0	0	0	0
報償費	2,239	0	0	0	0	0
需用費						
消耗品費	7,768	62,700	13,446	9,262	0	0
光熱水費	27,703	0	82,439	0	0	0
印刷製本費	8,994	0	13,881	4,000	0	0
車両関係費	69,183	0	0	0	55,770	0
燃料費	21,720	28,225	11,630	0	16,181	0
修繕費	188	0	0	0	0	0
役務費						
通信費	50,462	0	42,398	4,700	29,025	0
租税公課	0	0	19,984	0	0	0
保険料	7,377	0	16,560	0	0	0
委託料	0	0	139,116	0	0	0
備品購入費	0	0	9,024	0	0	0
使用料及び賃借料	273,751	27,170	75,532	0	0	0
分担金	6,235	5,000	0	0	0	0
会議費	137	0	0	0	0	0
管理費計	505,110	275,495	558,689	17,962	105,928	0
支出合計	3,153,114	3,419,047	3,668,923	4,513,890	3,652,455	3,390,000

令和4年度 地域包括支援センター 事業実績

令和4年度「包括的支援事業」及び「生活支援体制整備事業」完了報告書(別冊資料1～99頁)の「重点的取組事項」より抜粋

佐久平・浅間地域包括支援センター

包括的支援事業

計 画	<p>(1) 地域に出向き、高齢者の実態把握・地域の現状や課題、ニーズの把握を行いながら、地域での暮らしを支え、地域づくりに取り組む。</p> <p>(2) 多職種・関係機関と連携し、ネットワークの構築を行っていく。</p> <p>(3) 世代間を超え幅広く地域住民の方へ、地域包括支援センターの周知を図る。</p>
実 績	<p>(1) 地区サロンや自主活動の場・公民館活動等への参加実績を昨年度より延ばせたことや、昨年度より引き続き1人1日最低 3 件訪問する目標のもと、個別訪問件数が増えていることなどから、地域に積極的に出向くことができた。地域住民との関わりを多く持つことにより、高齢者の実態把握、地域の現状や課題・ニーズの把握を行うことができた。また、認知症サポーター養成講座の開催や当包括主催のサロンの立ち上げを行い、高齢者の見守り体制づくりや居場所づくり・地域づくりに取り組むことができた。</p> <p>(2) 当包括担当地区 23 地区の区長へ直接の働きかけや各地区区長会への参加、民生児童委員定例会への参加や民生児童委員と個別ケースでの相談対応等において、関わりをもつことで、地域の活動を実際に聞き取ることができた。また、各事業所や各関係機関とも定期的に会議を開催し、顔の見える関係づくり、気軽に相談できる関係づくりに努め、密に連携を図ることで、ネットワークの構築を図ることができた。</p> <p>(3) 世代間を超え幅広く地域住民の方へ、以下 5 点を重点的に行い、地域包括支援センターの周知を図ることができた。</p> <p>① 当包括担当 23 地区の区長へ電話または直接出向き、包括について説明とチラシ・ポスターの配布。</p> <p>② 地域の相談窓口としての地域包括支援センター活用の奨励・周知のため、当包括独自のチラシを作成し、当包括担当 23 地区の回覧板へ入れた。</p> <p>③ 新しい団地や包括への相談が少ない地区へ包括のチラシを全戸配布。</p> <p>④ 当包括担当地区内のスーパー、コンビニ、農協、郵便局、美容室、飲食店等 33 か所へ包括のポスターを配布。</p> <p>⑤ サロン・公民館活動等地区活動に参加し、包括についての説明を行った。</p>

生活支援体制整備事業

計 画	<p>(1) 地域の通いの場・自主活動の場などのマップ作りを行い、地域資源や高齢者の居場所の見える化をする。</p> <p>(2) サロン未開催地区や商業施設等で高齢者の居場所づくりの支援をする。</p>
実 績	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地区診断シートを基に地域の社会資源としての23区の地域の通いの場、自主活動の居場所、地区のサロンを地図に落とし込みを行った。 ・ 地区内23区長、コンビニ、郵便局、飲食店、美容院等33か所に向けて、地域の情報収集と包括の活動の周知、ポスター配布を行い社会資源の一覧を更新した。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度、サロン未開催地区の上塚原区長への働きかけを行い、サロンを開催。他、今年度サロン開催地区：長土呂区 7/14 上塚原区 7/7,10/13,12/17,2/18 平塚区 10/28。 ・ 自主活動・公民館活動のポールウォーキング(常田、長土呂)、ゲートボール(白山)、 ・ ヨガ教室(長土呂)、吹き矢の会(長土呂)、写経(長土呂)、フォレスターシニア会(長土呂)へ参加協力を行った。 ・ 大型商業施設への取り組みとしては、イオンにおいて、認知症サポーター養成講座を岩村田・東包括と合同開催。認知症の理解と包括の周知を行った。また、インターウェブウェルシア薬局内で当包括主催のサロンを立ち上げた。「元気にウキ楽サロン」と命名し毎月開催している。

岩村田・東地域包括支援センター

包括的支援事業

計 画	<p>(1) 高齢者の権利擁護について関係機関と適切な対応ができるよう、勉強会や周知活動を積極的に行う。</p> <p>(2) 包括支援センターの機能強化に向けて、包括内でのチームミーティングや勉強会を実施し、日頃から緊急時や災害時についての策を講じていく。</p> <p>(3) 認知症理解の普及啓発に取り組む為に地区サロンや地域の集りに参加した際には、認知症サポーター養成講座を開催していく。</p>
実 績	<p>(1) 社会福祉士を中心に、関係機関・地域住民に対して権利擁護の勉強会や周知活動を行った。具体的には岩村田・東地域包括支援連絡会にて、社会福祉士より虐待対応の研修会を開催。事業所内でも権利擁護ファイルを更新し、必要時に関係機関と連携が取りやすいよう努めている。また、地域住民に対してもサロンにて詐欺の注意喚起を行った。</p> <p>(2) 毎朝全員出席のミーティング時間を十分に確保し、専門職の視点で意見交換しやすい環境づくりを心掛けている。その時々々のトピックスに合わせて保健師が勉強会を開催し、職員の資質向上に努めている。</p> <p>(3) 佐久平浅間包括と共同し、イオン佐久平店と浅間地区の民生定例会にて認知症サポーター養成講座を開催。寸劇形式で事例提供したことで、参加者より「いい対応と悪い対応の違いがわかりやすかった。」「印象に残った」など高評価を頂いている。また、地区サロンでも認知症講話や認知症予防のための脳トレなど、認知症予防啓発活動を積極的に行った。(新子田、志賀上宿、猿久保サロン)</p>

生活支援体制整備事業

計 画	<p>(1) 地区サロン等、集いの場へ積極的に参加し地域づくりセミナーを開催する</p> <p>(2) 協議体と共に若い世代と高齢者のつながりを検討し、実施する</p> <p>(3) 地域のお宝を探し認定し、マッチングを検討、地域づくりを推進する</p> <p>(4) 独自の広報活動を行う</p>
実 績	<p>(1) 地区自主活動のグループ、地区サロン、佐久カフェなど参加。一本柳と志賀下宿で地域づくりセミナー開催した。</p> <p>(2) 地域ニーズと生活状況把握のため高齢者に限らず、担当エリアの全世代にアンケート調査を行い、報告書まとめた。世代間交流を広めていく糸口が見える結果となった。</p> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域ケア会議で地域課題の把握と、社会資源の情報収集を行ない、マッチング行った事で寺ヨガを開設することができた。多くの介護者への支援(リフレッシュ)や居場所作りに繋がっている。 ・ 若年性認知症の方の居場所や働き口について、地域のグループホームと連携を取り有償ボランティアへの仕組みを構築した。2月25日よりお試しボランティアが開始されている。今後も後方支援していく。 ・ 地域づくりセミナーを行うことで住民と共に地域づくりについて検討していく事でニーズがわかり、住民による互助の促進と、住民主体の体操教室の開講に繋がった。 ・ 認知症高齢者の徘徊予防・対策として GPS どこニャンを社会資源としてケアプランへ取り入れられるように、中部電力ミライズとも連携を取り合い事業所連絡会で事業所向けに勉強会を開催した。6包括へデモ品の貸し出しにも繋がった。 ・ 地域活動への参加を促すためには交通手段について課題があった。デマンドタクシーを利用しやすいよう、停留所の写真を撮りファイルにまとめ利用者に提示することで、介護予防サービスに限らず送迎のない地域自主活動への参加にも繋げることができた。 <p>(4) 市から配布された包括支援センターのポスター使い、広報活動おこなった。その他、「岩村田東地域包括支援センターだより」を3回発行し、うち一回は担当全地区に回覧行なった。</p>

中込地域包括支援センター

包括的支援事業

計 画	(1) 自立支援の視点を持ち、地域別の訪問者リストを活用、高齢者の実態把握の実施や、サロン等地域の集まりに参加し、介護予防ケアマネジメント等に繋げる。 (2) 幅広い世代にも地域包括支援センターの周知を図るため、関係機関を始め地域の多種事業所にも広報していく。
実 績	(1) 80歳以上で介護保険・事業対象者でない高齢者に対して地区別に名簿を作り、個別訪問した(41地区233世帯)。また、コロナ禍で開催が減少しているが、地区サロンや住民が自主的に開催しているサロン・サークル活動に参加し、予防事業等に繋げる等必要な支援を行った(地区サロン:年間4地区18回参加、自主サロン・サークル活動:年間9か所34回) (2) 地域包括支援センターの周知を図るために、広報誌「なかごみ通信」の発行を行ったり、地域包括支援センターのポスターを中込地域住民の利用の多い場所(病院、学校、薬局、銀行等)104か所に配布した。昨年度から開催している「まちの縁側講座」を「中込縁側の会」と名称を変えて年間3回行い、地域住民と地域の見守り等について話し合う事ができた。

生活支援体制整備事業

計 画	地域づくりを行うため、定期的な情報の発信や共有及び連携強化の場として協議体を設置し、地域課題の把握を行い、地域に必要な支援の提案や社会資源の活用を出来るようにする。
実 績	今年度は新型コロナウイルス感染対策のため、地域包括ケア協議会を年4回開催予定としていた。Web環境等を整備しハイブリッド開催を2回、アンケートを配布し書面開催として1回実施する事が出来、地域ニーズの把握や情報交換を行えた。また、「中込縁側の会」を年3回開催し、見守りについてのボランティア活動に関して地域住民との話し合いが持てた。来年度も開催していきたい。

野沢地域包括支援センター

包括的支援事業

計 画	<p>(1) 地域住民や高齢者の方へ野沢地域包括支援センターを知り活用していただくために啓発活動を地域に出て行い、保健・医療・福祉関係機関等との連携体制の構築を図る</p> <p>(2) 認知症の理解の普及啓発に取り組む。地域ケア会議、地区サロン等で認知症サポーター養成講座の開催・認知症講話の紹介を積極的に行う</p> <p>(3) 地域包括ケアシステム実現のために、地域ケア会議を開催し、個別事例を通して多職種協働によるケアマネジメントを行い、地域課題の抽出や地域づくりを推進する</p>
実 績	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的に地区サロンに参加し、地域薬剤師の講話を紹介した。 ・ 家族介護者交流会をコロナ禍で5月は中止になったが、11月の開催は延期し2月に開催した。 ・ 5月に障がい者自立支援センターで出前講座、佐久大学や公民館での市民ふれあい学級の講師を務めた。 ・ 令和5年2月に事務所が野沢会館に移転したため、事務所の周知目的もあり、3月には認知症サポーター養成講座を独自に開催し、関係機関のみでなく市民の方にも広報し参加いただいた。 <p>(2) 野沢地区で3回のサポーター養成講座が開催され、101人がサポーターとなった。</p> <p>(3) 7名の方に対して8回の地域ケア会議を開催し、延べ73名が参加している。情報共有や顔の見える関係づくりをすることで、支援体制の強化が図られ、住み慣れた地域での生活継続が可能となった。独居高齢者や介護者が不在または遠方のケースが多かった。</p>

生活支援体制整備事業

計 画	<p>(1)「通いの場づくり」のためのプロジェクトを進める(継続)。</p> <p>(2) 地域資源の把握・発掘・活用のために、情報の集約化を進める。</p> <p>(3) 地区の高齢者のニーズ調査・統計に着手する。</p>
実 績	<p>(1) 新型コロナウイルス感染症の第7波・第8波など拡大傾向が続いていたため、具体化して進めていくことについては引き続き慎重さが求められた。協議会委員との情報交換を通じて、まずは地区サロンの再開など地区の動静を踏まえた対応を行っていくこととした。</p> <p>(2) 区長や民生児童委員との情報交換を通じて、地域資源の活動状況の把握に努めた。把握した資源等については情報の集積を行なった。活用可能・周知可能な情報について冊子形式にまとめ、必要に応じた活用を行なっていくことができた。</p> <p>(3) 「高齢者を支えるための地域づくりに関する市民アンケート」を実施、協議会の一環として行ったが、協議会委員のみならず広く地区住民の意見を求めるという形で実施した。アンケート結果について集計と統計の作業を行い、移動手段や認知症見守り等の地域課題を抽出することができた。結果をグラフにより可視化、また全委員に結果のフィードバックを行なった。</p>

臼田地域包括支援センター

包括的支援事業

<p>計 画</p>	<p>(1) 共生型社会に向けネットワークの維持・向上に努める。 (2) 個別課題解決機能を有した地域ケア会議の充実・活用。</p>
<p>実 績</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 民生児童委員・地域包括支援センター・市地区担当保健師との三者連絡会は、8 月に実施。2 月はコロナウイルス感染拡大のため中止となったが、日頃から連携をとり適宜訪問等に繋げている。 ・ 生活支援コーディネーターを中心に、フォーマル、インフォーマルの社会資源の情報収集に努め随時更新を行った。 ・ 地域ケア会議開催:2 件 (内訳)認知症高齢者等行方不明時緊急連絡方法に関して:1 件 独居高齢者の見守り体制:1 件 ・ センターの周知は、生活支援コーディネーターを中心に臼田商店街や近隣の学校、駅、コンビニ等にポスターを配布し周知に努め、商工会青年部には地域包括支援センターの役割やネットワーク構築について講義した。 ・ 高齢者を世話する若い家族において、「要保護児童対策地域協議会における個別ケース会議」に 2 回出席(7/20・3/13)し、東信教育事務所、佐久児童相談所、市教育委員、学校、保健師などの関係機関と協議し支援の調整を行っている。 ・ 障がい者支援サービスを利用している障がい者から、介護保険の移行や併用の相談があった際に支援について会議に参加し、サービス調整を行っている。 ・ 家庭介護者会 7 月 9 日(土)「音楽で心に栄養を、ストレッチで体をリフレッシュ」11 名参加 演奏:ミルク&カウボーイ/理学療法士:市川彰氏 カントリーミュージックを聴きながらのストレッチ体操は好評だった。 1 月 13 日(水)「こころづもりゲーム」13 名参加 講師:うすだ健康館 井出美由紀氏 自分自身を振り返る良い機会となったとの意見がきかれた。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護予防ケアマネジメント地域ケア個別会議事例提供/3 回/6 事例 ・ 地域ケア会議実施回数/2 回 内容:認知症高齢者、行方不明対応に関するもの/1 件 独居高齢者の支援方法に関するもの/1 件 ・ 臼田地域包括連絡会では、3 月に見える事例検討会を地域のサービス事業所やケアマネジャーに対して開催。独居高齢者を支える地域資源や地域課題について考える場とした。

生活支援体制整備事業

計 画	(1) 地域資源が十分に活用できるよう、「地域資源マップ」の作成と「見える化」に取り組む。 (2) 臼田地域における「通所型サービス B」の立ち上げ支援 (3) 臼田地域における「通所型サービス C」の立ち上げ支援
実 績	(1) 昨年作成したデマンド交通さくっと停留所 MAP 臼田版をもとに、臼田地区全体の地図上に停留所の位置をマーキングし、位置情報の確認や距離感が把握できるようにした。また、新たな地域資源の情報収集と情報整理を継続している。 (2) 通所型サービス B 立ち上げに向け、出で鯉サポーターと話し合いを重ね、令和 5 年 4 月の運営開始となった。 (3) 通所型サービス C の立ち上げについて、問い合わせのあった事業者に対し説明を行っている。

包括的支援事業

<p>計 画</p>	<p>(1) 地域包括ケアシステムの構築のため多職種と連携し、ネットワークの構築を行う 地域の主任ケアマネージャー等と協働し、地域の社会資源の掘り起こしの為の情報収集を行うことでネットワーク構築を推進します。</p> <p>(2) 地域高齢者や課題の把握、地域包括支援センターの周知を図る 地域ケア会議を推進し、困難ケースの対応から地域課題の把握を行い、地域づくりに繋がられるようにします。</p>
<p>実 績</p>	<p>(1) 地域住民の視点から必要な社会資源は何かを探る為、地域の主任ケアマネ等と共に担当している利用者から直接聞き取る実態調査を行った。知り得た情報を可視化することで地域特性を知ることや、今後の地域包括ケアシステム構築に繋げることができた。</p> <p>(2) コロナ禍が長引き多くのサロンが休止や中止となる中で、開催されたサロンには積極的に参加し、地域住民との顔の見える関係作りを行うことで個別支援につなげていくことができた。また、包括支援センターのポスターを金融機関・医療機関・商店・地域住民が集まる場所に掲示を依頼し、包括支援センター広報誌として「あさもち新聞」を 2 号発行することで包括支援センターの周知を図ることができた。</p>

生活支援体制整備事業

<p>計 画</p>	<p>(1) 生活支援コーディネーター業務 地域の見えない社会資源の掘り起こしを行い、社会資源の可視化に努めます。</p> <p>(2) 協議体 世代間交流の行える場作りを行い、顔の見える関係作りを目指します。</p>
<p>実 績</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 浅科・望月地区の介護予防ケアマネジメントで担当している利用者や総合支援業務で関わった住民に対して、包括職員と地域の主任ケアマネジャー5人にも協力してもらい地域の身近な人材や集まる場所を聞きとり調査を実施。浅科地区、望月地区それぞれの地図に可視化することができた。また、聞き取り調査の中でごみ出しの方法が地区ごとに異なることがわかり協力いただいた区長からごみ出しの方法(前日出しが可能かどうかなど)を聞き、一覧にまとめることが出来た。 ・ 昨年度の11月に開催したまちの縁側講座の報告会を今年度開催し、参加された方の思いを形にするためその後2回開催。その中で長野県長野西高等学校望月サテライト校と少しずつだが交流する機会が増えた。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度の協議会のテーマを『備えあれば憂いなし～今から知っておこう地域の公共交通機関、今から作っておこう世代を超えた住民同士のつながり～』として、協議会を2回実施することが出来た。(新型コロナウイルス感染蔓延防止の影響もあり対面(講義形式)とアンケート調査実施) ・ アンケート調査では世代間交流の場は必要という回答が多かったが、新型コロナウイルスの感染を懸念し開催を希望する委員はいなかった。アンケートの意見を参考に来年度に開催出来るようにしていく予定。

令和5年度 包括的支援事業 収支予算書

収入の部

単位:円

区分	地域包括支援センター					
	佐久平・浅間	岩村田・東	中込	野沢	臼田	浅科・望月
受託収入	20,270,000	20,460,000	20,320,000	19,600,000	19,240,000	19,560,000
法人負担金	0	0	2,073,080	5,795,000	850,000	0
事業収入	10,560,000	6,325,000	7,200,000	9,570,000	7,500,000	10,382,000
その他収入	10,000	0	0	0	60,000	25,000
収入合計	30,840,000	26,785,000	29,593,080	34,965,000	27,650,000	29,967,000

支出の部

単位:円

区分	地域包括支援センター					
	佐久平・浅間	岩村田・東	中込	野沢	臼田	浅科・望月
人件費						
職員俸給	14,341,500	14,500,000	20,815,200	18,000,000	16,850,000	16,247,000
職員手当等	5,200,000	2,000,000	3,592,080	8,500,000	3,900,000	4,229,000
共済費	2,982,000	2,500,000	0	4,080,000	4,000,000	5,237,000
人件費計	22,523,500	19,000,000	24,407,280	30,580,000	24,750,000	25,713,000
管理費						
減価償却費	166,000	2,000,000	1,036,800	333,000	0	102,000
福利厚生費	34,000	160,000	118,800	110,000	30,000	27,000
研究研修費	26,000	80,000	144,000	26,000	30,000	11,000
旅費	8,500	50,000	43,200	45,000	10,000	0
報償費	26,000	0	0	20,000	0	0
需用費						
消耗品費	173,000	400,000	115,200	180,000	100,000	85,000
光熱水費	346,000	1,000,000	931,500	210,000	0	140,000
印刷製本費	104,000	25,000	111,600	0	0	11,000
車両関係費	667,000	800,000	712,800	0	0	8,000
燃料費	260,000	700,000	135,000	370,000	120,000	143,000
修繕費	8,000	100,000	90,000	250,000	20,000	67,000
役務費						
通信費	606,000	500,000	378,000	488,000	300,000	522,000
その他	0	10,000	0	0	0	0
租税公課	26,000	50,000	247,500	0	15,000	27,000
保険料	37,000	20,000	162,000	0	40,000	131,000
委託料	3,000,000	1,400,000	801,900	2,200,000	1,350,000	2,851,000
備品購入費	260,000	350,000	29,700	41,000	50,000	100,000
使用料及び賃借料	2,557,000	60,000	118,800	110,000	580,000	29,000
分担金	4,000	40,000	0	0	240,000	0
諸会費	4,000	20,000	0	2,000	5,000	0
会議費	4,000	20,000	9,000	0	0	0
その他	0	0	0	0	10,000	0
管理費計	8,316,500	7,785,000	5,185,800	4,385,000	2,900,000	4,254,000
支出合計	30,840,000	26,785,000	29,593,080	34,965,000	27,650,000	29,967,000

令和5年度 生活支援体制整備事業 収支予算書

収入の部

単位:円

区分	地域包括支援センター					
	佐久平・浅間	岩村田・東	中込	野沢	臼田	浅科・望月
受託収入	3,170,000	3,230,000	3,170,000	3,260,000	3,200,000	3,350,000
法人負担金	964,500	1,167,000	118,120	315,000	750,000	80,000
事業収入	0	0	0	0	0	0
その他収入	0	0	0	0	0	0
収入合計	4,134,500	4,397,000	3,288,120	3,575,000	3,950,000	3,430,000

支出の部

単位:円

区分	地域包括支援センター					
	佐久平・浅間	岩村田・東	中込	野沢	臼田	浅科・望月
人件費						
職員俸給	2,053,000	2,400,000	2,312,800	2,170,000	2,800,000	2,225,000
職員手当等	800,000	1,100,000	399,120	920,000	500,000	548,000
共済費	458,000	500,000	0	470,000	400,000	650,000
人件費計	3,311,000	4,000,000	2,711,920	3,560,000	3,700,000	3,423,000
管理費						
減価償却費	26,000	130,000	115,200	0	0	0
福利厚生費	6,000	30,000	13,200	0	5,000	0
研究研修費	4,000	26,000	16,000	0	5,000	0
旅費	1,500	10,000	4,800	0	5,000	0
報償費	4,000	0	0	0	0	0
需用費						
消耗品費	27,000	20,000	12,800	10,000	10,000	0
光熱水費	54,000	0	103,500	0	0	0
印刷製本費	16,000	50,000	12,400	5,000	0	0
車両関係費	103,000	0	79,200	0	0	0
燃料費	40,000	45,000	15,000	0	30,000	0
修繕費	2,000	0	10,000	0	0	0
役務費						
通信費	94,000	40,000	42,000	0	30,000	0
租税公課	4,000	0	27,500	0	5,000	0
保険料	6,000	10,000	18,000	0	4,000	0
委託料	0	0	89,100	0	6,000	0
備品購入費	40,000	0	3,300	0	10,000	0
使用料及び賃借料	393,000	10,000	13,200	0	130,000	0
分担金	1,000	4,000	0	0	10,000	0
諸会費	1,000	2,000	0	0	0	0
会議費	1,000	20,000	1,000	0	0	7,000
管理費計	823,500	397,000	576,200	15,000	250,000	7,000
支出合計	4,134,500	4,397,000	3,288,120	3,575,000	3,950,000	3,430,000

令和5年度 地域包括支援センター 事業計画

令和5年度「包括的支援事業」及び「生活支援体制整備事業」事業計画書(別冊資料100～129頁)
の「重点的取組事項」より抜粋

佐久平・浅間地域包括支援センター**包括的支援事業**

- (1) 子供から高齢者まで住民に幅広く認知症に対する正しい知識を広め、地域での見守り体制の構築を目指し、各地区の中で認知症サポーター養成講座を開催する。
- (2) 相談窓口が身近な存在となるよう、地域包括支援センターの周知・広報活動を積極的に行い、気軽に相談できる体制整備に努め、センターの利用促進及び住民が必要とする情報提供を行う。
- (3) 積極的に地域に出向き、高齢者の実態把握・地域の現状や課題の把握、多職種・関係機関との連携を図りネットワークの構築を行い、地域づくり・居場所づくりに取り組む。

生活支援体制整備事業

- (1) 地域の高齢者が安心して地域活動に参加できるよう居場所づくりとしての包括サロンを定着化し住民主体のサロンを発掘、中断しているサロンの開催の支援を行う。
- (2) 大型商業施設イベントの定期開催を行い、地域包括支援センターや居場所の必要性を周知していく。
- (3) 佐久平・浅間包括支援センター内の新たな団地や地区に向けての地域ニーズの把握や周知のための働きかけを行う。

岩村田・東地域包括支援センター**包括的支援事業**

- (1) 高齢者が可能な限り住み慣れた場所で暮らす事の実現と認知症に対する地域の理解の促進を図り、専門職が適切な支援ができるよう対応していく。
- (2) 住民や関係機関に対して介護予防の啓発を行い、自立に向けて自主的に介護予防に取り組めるよう支援する。
- (3) 高齢者の尊厳ある暮らしが最期まで確保できるよう、専門職と連携し支援者会議や地域ケア会議を開催し、本人家族が自己決定できるよう支援をしていく。

生活支援体制整備事業

- (1) ボランティアについて地域住民に情報提供し、インフォーマルサービスの担い手を発掘していく。
- (2) 地域の特色や強みを見つけ、社会資源として生かせるようマッチングを行っていく。
- (3) 4つの助(自助、互助、共助・公助)やご近所との繋がりを地域で考える機会を作り、地域包括ケアシステム構築に向けて意見交換できる場を作る。

中込地域包括支援センター

包括的支援事業

- (1) 自立支援の視点を持ち、地域別の訪問者リストを活用、地域に出向き、高齢者の実態把握の実施や、サロン等地域の集まりに参加し、介護予防ケアマネジメント等に繋げる。
- (2) 個別課題解決機能を有した地域ケア会議を推進し、地域課題の抽出や地域づくりを行う。

生活支援体制整備事業

- (1) 地区サロン等の集いの場に参加したり、社会資源を把握し活用できるようにしながら、情報共有、見える化していく。
- (2) 地域包括ケア協議会では「地域の支え合い・助け合い・近所付き合いの見える化」が出来るようにしていく。

野沢地域包括支援センター

包括的支援事業

- (1) 包括支援センターを知り活用していただくための啓発活動を地域に出て行い、関係機関との連携体制の構築を推進する
- (2) 認知症の普及啓発を行うためにサポーター養成講座を開催(年2回)し、野沢地区でのオレンジカフェ設立支援を行う。
- (3) 住民の外出の機会の確保、生活の質の向上のための1つのツールとしてデマンド交通の活用支援を行う。

生活支援体制整備事業

- (1) 「通いの場」づくりのために関係機関との情報交換をおこなう
- (2) 地域資源の把握・発掘・活用のために情報の集約化を継続する

臼田地域包括支援センター

包括的支援事業

- (1) 高齢化に伴う様々なニーズに対応するためのネットワークの構築・強化に努めます
- (2) 地域ケア個別会議により地域課題を発見し、地域住民の自立支援・重度化防止の推進をおこないま
す

生活支援体制整備事業

- (1) 地域資源が十分に活用できるような情報整理と発信をします
- (2) 多様なニーズに応えられる移動資源の啓発・啓蒙をします

浅科・望月地域包括支援センター

包括的支援事業

- (1) 地域の高齢者や介護する側の世代に向けて地域包括支援センターの周知を図りながら地域の課題を
把握していきます。
- (2) 地域包括ケアシステム構築の為に職種連携をし、ネットワーク構築を強化します。

生活支援体制整備事業

(1) 生活支援コーディネーター業務

まちの縁側講座その後の会を定期的に行い、地域の方が集まることが出来る場所のきっかけ作り
や情報共有の場を作ります。

(2) 協議体

世代間交流が行える場づくりを行い、顔の見える関係作りを目指します。

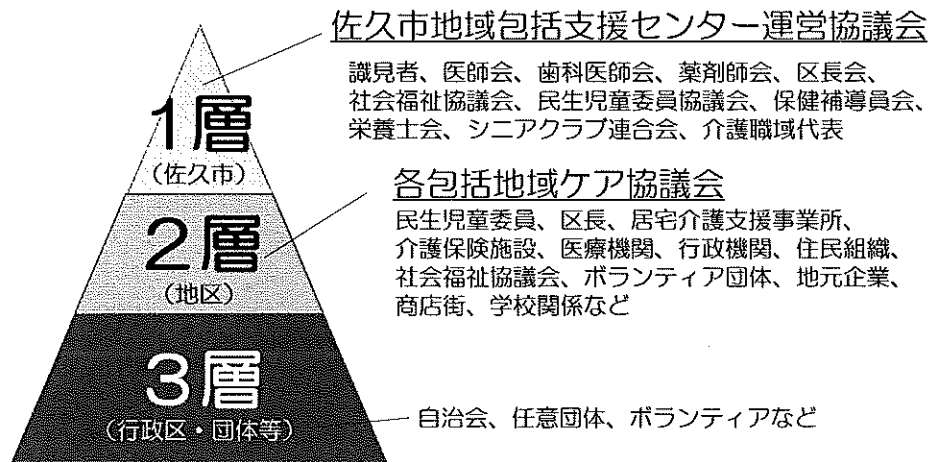
❖ 協議体とは 概要

* 協議体の主な目的

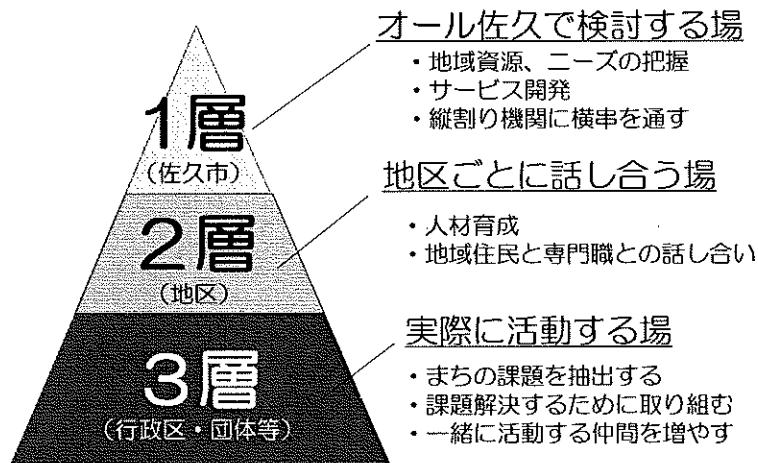
- 地域課題について「話し合う」
- サービスや制度を「学ぶ」
- 課題の解決策を「提案する」
- 顔と顔が見える「関係を作る」

3層に分かれて
役割分担して進めています

❖ 協議体とは 構成団体



❖ 協議体とは 各層の役割



❖ 第2層協議体の3つの役割



地域のお宝（人材・場所）や
地域の困りごとに気付く・発見をする



気付きや課題について
話し合う・共有する



自分たちで解決できること
について考えて活動をする

＝支え合い活動を進める土台作り

令和4年度 地域包括支援センター 地域包括ケア協議会報告及び
 令和5年度 地域包括支援センター 地域包括ケア協議会開催予定

佐久平・浅間地域包括支援センター

令和4年度 地域包括ケア協議会報告

テーマ	独居・高齢者孤立化防止の為に地域は何ができるのか	
目指すところ	独居・高齢者の孤立化の要因を分類し協議会として地域にむけて行動の具体化をおこなう	
第1回	令和4年7月12日	孤立化の原因、要因を分析し対策の具体化をグループワークより提案
第2回	令和4年11月8日	前回のグループの議論から協議会として地域への提言を協議

成果:孤立化防止の具体的な取り組みについての提言を地域に向けて発信することができた

課題:地域の中では回覧板が回らない独居高齢者がおり、その場合の代替え案や別の取組みや仕組み作りが必要ではないか

対策:民生児童委員との協力(ヤクルト配布の際、情報のチラシと一緒に配布してもらう)

隣組で声をかけてもらう仕組みの検討

令和5年度 地域包括ケア協議会開催予定

テーマ	委員会でテーマを協議し決定(昨年度の孤立化などの取り組みの発展等)	
目指すところ	新体制での協議会の地域課題に向けてのテーマきめと協議会としての行動化の取り組み(孤立化防止の提案、地域課題の解決等)	
第1回	令和5年7月	テーマについて協議・決定
第2回	令和5年11月	協議会としての行動化に向け計画
第3回	令和6年2月	協議会への行動化まとめ、次年度への取り組み

岩村田・東地域包括支援センター

令和4年度 地域包括ケア協議会報告

テーマ	世代間交流	
目指すところ	地域住民20代から90代以上を対象に生活実態や福祉ニーズを把握し、次年度以降の協議会につなげる	
第1回	令和4年11月30日	アンケート実施

成果: 地域の高齢化率や世代ごとに状況や課題が違うことがわかった

団塊世代の方々を中心に元気な高齢者が増えており「支えられる側」ではなく「支える側」として大切なことを認識した

課題: コロナ禍で協議会の開催ができなかった

対策: 今後は感染症拡大等の際には web 会議等、他の開催方法について検討し開催を継続する
地域活動等に参加し、中心となって活動をしてくれる人材を見つけていく

令和5年度 地域包括ケア協議会開催予定

テーマ	岩村田・東地区の地域包括ケアシステムを理解し広げていく。	
目指すところ	岩村田・東地区の地域包括ケアシステムを理解する。年齢を重ねても住みやすい地域づくりについて地域住民皆が関心を持っている。	
第1回	令和5年10月2日	地域包括ケアシステムのイメージ伝え、協議会の立ち位置、協議会委員の役割を理解する。
第2回	令和6年2月5日	令和4年度に実施したアンケート結果をもとに、地域課題や強みについて考える。

中込地域包括支援センター

令和4年度 地域包括ケア協議会報告

テーマ	地域の小さい単位での見守り体制や、資源の活用を見える化し高齢者だけでなく若者や中間層も含め住みやすく、高齢になった時にも住み続けられる街づくりをしていく	
目指すところ	①移動・買い物・居場所などの地域資源を把握し、地図に落とし込み一目でわかるようにする ②災害時に、避難場所や経路・方法・普段の地域での声かけなど地域ごとに確認する	
第1回	令和4年5月31日	グループワーク「地域包括ケアシステムについて」
第2回	令和4年7月12日	講義「地域活動について」 グループワーク「地域を理解するために、必要な情報や知りたいことは？」
第3回	令和5年2月15日	「地域を理解するために、必要な情報や知りたいことは？」「地域でしかわからない情報」についてその情報を集めるには、あなたならどうしますか？という内容でアンケート実施

成果:地域にはたくさんの情報・支え合い活動・ネットワークがあり、既存の資源やネットワークを活用していく事で地域のつながりが強くなることがわかった

課題:ゴミ出しや雪かきなどちょっとした支援を望む人が多く、自助・互助が区内で出来る仕組みづくりが必要
各区の役員任期が満了することで、関わりが希薄することがある

対策:区長を始め民生児童委員・隣組などその地域に住んでおり情報を持っている人に具体的に人名や活動を
確認し調べる

自分の地域の事として考えていただくためにも地区診断シートを用いて地域課題を可視化する

令和5年度 地域包括ケア協議会開催予定

テーマ	地域の支え合い・助け合い・近所づきあいの見える化	
目指すところ	地域ケア会議のキーワードから、認知症があっても地域で生活出来る様に、地域で出来る支援を考えて具体化する	
第1回	令和5年6月29日	協議会・地域ケア会議の説明後、地域ケア会議で見えてきた課題 (ゴミ出し、サロンに行かれない人の事例)について話し合う
第2回	令和5年11月17日	1回目で抽出された事例のまとめ

野沢地域包括支援センター

令和4年度 地域包括ケア協議会報告

テーマ	地域住民のニーズを探る(高齢者を支えるための地域づくりに関するアンケート)	
目指すところ	地域包括ケア構築の根拠となるデータを抽出し、地域課題や強みを明確にする	
第1回	令和5年3月	アンケート実施

成果:暮らしやすさを多くの人が感じており、互助の意識も高く、助け合って暮らす素地があることがわかった

課題:生活インフラの地域格差、特に小売店がない地区は高齢者の生活が難しくなっている

車が無いと暮らせない実態があり、運転免許の返納を考えることの困難さがある

健康不安は多くの方にあり、認知症への関心も高いため、健康増進や認知症ケアの啓発が必要

対策:移動手段について、デマンド交通の理解啓発・利用促進を働きかける

認知症の方を地域で支えるための啓発講座をおこなう

地域住民は、移動スーパーや食材配達などの地域資源把握と活用をする

令和5年度 地域包括ケア協議会開催予定

テーマ	地域課題へのアプローチ	
目指すところ	それぞれの地域課題に対して具体的なアクション(講座や催しの実施など)が起こせるようにする	
第1回	令和5年6月29日	認知症の支援とオレンジカフェについて(仮)
第2回	令和5年10月26日	移動支援について(仮)
第3回	令和6年2月29日	資源把握のブラッシュアップ(仮)

臼田地域包括支援センター

令和4年度 地域包括ケア協議会報告

テーマ	社会的処方について理解を深め、地域のつながりを強化していく	
目指すところ	それぞれの職域での課題や、取り組まれている活動などについて情報をまとめ、それぞれの職域が連携しながら社会資源の活用ができるようにする	
第1回	令和4年9月30日	「ゴミの分別・ゴミの出し方について」「高齢者の移動手段について」アンケート実施
第2回	令和4年11月11日	講義「デマンド交通「さくっと」の利用について」

成果:ゴミに対する課題は地域の中で支えあえていることが多くあること、また移動に関してはデマンド交通「さくっと」について情報不足であることがわかった

臼田のデマンド交通「さくっと」利用者の多くが、生活圏域は臼田地域で完結できていることがわかった

課題:デマンド交通「さくっと」について、新しい情報が更新された際、タイムリーな情報をキャッチする方法、周知の方法

対策:高齢者支援に関わっている方たちに対し、新たに得た情報は「地域包括連絡会」等でタイムリーに発信していく

今後も地域住民への周知の場を設け、勉強会を継続していく

令和5年度 地域包括ケア協議会開催予定

テーマ	住み慣れた地域で自分らしく暮らす ～移動編～	
目指すところ	資源と資源が連続性をもって活用できるよう、ネットワークの構築を目指す (運転免許返納後の生活がイメージできるような仕組みができている)	
第1回	令和5年7月頃	運転免許返納したら「何が困る？」グループワーク
第2回	令和5年11月頃	第1回のグループワークの意見を踏まえ課題整理をする

浅科・望月地域包括支援センター

令和4年度 地域包括ケア協議会報告

テーマ	「備えあれば憂いなし」今から知っておこう地域の公共交通機関、今から作っておこう世代を超えた住民同士のつながり	
目指すところ	公共交通機関の利用の仕方について理解ができる 世代間交流の方法を委員の方から意見を出してもらい、実際に活動できる	
第1回	令和4年10月18日	デマンド交通「さくっと」の利用方法について講義形式で開催
第2回	令和5年2月27日	コロナ禍でもできる世代間交流の方法をアンケート実施

成果: 講義の中で協議会委員が地域住民の声として具体的な質問をされ、公共交通機関の利用について関心がある

世代間交流の必要性を感じ、具体的な方法を考えられる委員が多い

課題: 世代間交流を行うことの必要性は感じているが、感染症の懸念があり、人が集まることに消極的である

対策: 地域のサロン開催時に感染予防の講習を行う

地域の中で活動できる方のネットワークが広がるようコミュニケーションを大事にし、顔の見える関係をつくる

令和5年度 地域包括ケア協議会開催予定

テーマ	今から世代を超えた住民同士のつながりを作っていけるように準備しましょう	
目指すところ	浅科地区、望月地区それぞれで地域の実情に合わせた世代間交流の方法を委員の方から出してもらい、実際に協議会委員が活動できる	
第1回	令和5年6月頃	協議会委員の自己紹介、協議会委員長の選出。協議会の振り返り後、世代間交流のアイデアを浅科地区、望月地区それぞれ検討する
第2回	令和5年10月頃	浅科地区、望月地区それぞれの地区で世代間交流のアイデアを出し合い11月に開催出来るようにする
第3回	令和5年11月頃	浅科地区の世代間交流開催
第4回	令和5年11月頃	望月地区の世代間交流開催